

記念會

私立新發田
幼稚園長

市島 貞三

私の幼稚園では開園記念日を休むことにしてある。只休む丈では飽足らぬ、何とか此日を有効にしたいものと考へた末、保育滿了生を順次招集することに決し、今年第一回を開いた。處が山口保姆が感興限りなきまゝ覺えがきしたとて示された私も折角心がけたことがどうやら物になつたので嬉しかつた。

山口保姆は此團の創立より主任として今猶勤續の方である。此種の會合は其當時の職員が最も大切で、會に居合はすと否とは至大の關係がある。しかも山口保姆はもとの先生といふばかりでなく今も同一の處に先生として居らるゝのだ。もとの母さんは居ないで繼母といふことでは親みの上は大へん相違がある。此會に集つた子供がおもしろかつたを繰返して別れたといふものは畢竟山口

保姆があるからのことだ。

記念の意味でこの日一人も辭さずに圖畫をかきのこしたばかりでも私は嬉しかつたのに、尙各々で在園當時における感想を筆記したに至つては快心抑ふべからずだ。私はこれを少しかいて山口保姆の覺書と一つにして此會の報告書としやう。

感想筆記は何等の注文をせず集つた者皆が一枚づつ隨意にかいたものである。これを二種に統計して見るに

其一 (對象別)

- | | |
|---------------|----|
| 先生に對するもの | 一〇 |
| 園兒互に對するもの | 九 |
| 菓子に對するもの | 九 |
| 園に對するもの及一般のもの | 八 |
| 運動具に對するもの | 六 |
| 手技に對するもの | 五 |
| 遊園に對するもの | 四 |
| 往復の道路に對するもの | 四 |

辨當に對するもの

其他

計

其二 (感情別)

嬉しかりしかしこと

樂しかりしこと

困りしこと

哀しかりしこと

憾めしかりしこと

恐しかりしこと

其他

計

三

六

六四

二五

二〇

七

三

三

二

四

六四

かやうな結果を得た。猶その内容については、入園當時氣弱な子供の扱方につき研究を要すること扱方の適實なりしと思はるゝこと、又不注意であつたと思はるゝこと、手技の中に無理などをさしてあつたと思はるゝこと、砂場やブランコの幼児に適應せるものなること、菓子、辨當を喜ぶこと

など種々學ぶどころがあつた。

感想中の若干

○母につれられて始めて幼稚園にきた時、知らぬ人ばかりで何となく哀しかつたが、ブランコに人の乗つて居るのを見ると急に嬉しくなつた。

○毎日幼稚園にいさんで通つた。朝皆と共に先生におはやうの唱歌を歌ふのが何より楽しくてさ。

○私はよく泣きましたつけ。それも何でもないとにね。思へばおかしくてなりませぬ。

○私の家から幼稚園迄は遠い。毎日おもしろく通つたが、冬手足がつめたくなり家へ戻り、父に勇氣をつけられて來直したこと何度もあつた。

(園長附言風雪の日はひどいですからね。忍耐元氣の徳を養つたに違ひない。此兒童操行學業優等で小學校を卒業し、今中學校に居る。)

○雪道をふんで幼稚園に來た時、八百屋の若者に押されてころんだ。名は忘れた友達があとからきて泣かないで行かうといつてくれたけれど、僕は

泣きながらさき行つてとたのみ、其日は休んだ。

すると家の人達にうち辨慶などいはれ、休まねばよかつたと思つたつけ。

○初め親に送られてきた。親が見えぬと哀しくて泣いたものだ。そうすると先生がいろくゝ慰めて下すつて、親にかはらぬ感じがしたので、直になれた。

○先生よりさき幼稚園にきて先生のお出を待つたつけ、「先生おはやう」といひ、先生から「よいお子さん」といはれるのが嬉しがつた。

○先生からいひつけられ御手傳して嬉しがつた。

○松の落葉を拾つて先生に眼鏡をこしらいて貰つて嬉しがつたつけ。

○色紙を魚の形にきり、先生は着や、私らはお客となつておもしろく遊びしこともあつた。

○某君と某君と共に女の子を泣かせてはおもしろがつて居てあつた。今思へば何の事だ、おかしくてならぬ。

(園長附言それは悪いことと早くきかせたかつた。)

○御菓子を取く時の嬉しさ。早く頂きたく、先生の處へ行かうとしたら、ついてきて居た女中が「家へかへると母さんにいひます」というたので、思ひ止つたつけ。

○お菓子を貰つたつけ、皆と共に手を打つて嬉しがつた。そうして半分はのこしてかくしへ入れたのを、又出してたべた。家でたべるよりすつとおいしがつたの。

○お菓子が嬉しがつた。先生がわけて下さるとき私になせ早く下さらないと言つて泣いたこともあつた。

(園長附言常にはやらぬが式日とかお花見とか節句とかにやつたのです。)

○ブランコに乗つて遊んで居ると○○さんが押し私を落した。式の日でおめでたいのにありたけの聲をだして泣きましたつけ。

○おへやの棚にある汽車や電車をいぢつておもしろかつた。その汽車もその電車も同じ棚に今日見た。

雜 錄

○文部省保育講習會の景況

今夏の文部省保育講習會は八月一日より十日間東京女子高等師範學校講堂に於て開催せられたるが、倉橋講師の粘土製作に關する講演並びに堀講師の自然現象に關する講演は共に適切にして有益なる講演なりき。特に堀進二氏及び新海竹太郎氏の粘土製作に關する實習は講習員に最も深き印象を與へたるもの、如し、講習員の總數は約百名にして、各自熱心に粘土製作を試み、それぞれ有益なる訂正を講師に依つて與へられ利用する所非常に大なりき、殊に堀講師がモデルを使用して十日間にわたる實際の製作を示されたるは他の場合に於

ては殆んど得べからざる特典にして、講習員に多大の感激と教訓とを與へたることは言ふを俟たざるなり。

○フレール會主催講習會

文部省保育講習會の開期間を利用して、八月六日より五日間、東京女子高等師範學校雨天體操場に於て開かれたるフレール會主催の律動遊戯の講習會は土川講師の熱心なる指導によりて、同氏著の「律動的遊戯」の第一集及び第二集の殆んど全部を講習したり。是亦炎暑を意とせざる講師と講習員との熱心によりて著しき効果を收めたるもの如し。